『戦時中の体験した出来事』

田原市田原町　東郷　池

我が家から見える笠山は、戦時中殆ど木がなく笹で覆われ、冬は一面黄色にかがやき見事でした。頂上には、海軍の陣地があり、機関銃が備えられ兵隊が常駐していました。南側の斜面には、ジグザグの壕が無数に掘られ頂上の陣地までつながれておりました。

昭和二十(一九四五)年五月頃の事でした。私は飛行機の爆音で外にとび出し、空を見上げると、アメリカの戦闘機が一機、笠山の上にいました。笠山の陣地が攻撃されているのです。思いがけない事に驚き、何とも言えない気持に恐われました。そして、戦闘機は低空でこちらに向かってきて機銃を発射しました。操縦席のアメリカ兵は笑って、こちらに向かって手を振るのです。この時の驚きと悔しさは未だによみがえってきます。銃弾は、我が家の大きな木の根元部分に当たっていました。この木は、大人三人が抱える程のもので、弱い木で、祖母から木の登りは止められていました。この木は古いものでしたが今はありません。そして、銃弾は、勝手口のガラス戸にも当たっていました。暫くして、二人の日本の兵隊が見えて、弾は持ち帰えって行きました。アメリカ兵のにこやかな顔とこわい日本兵の顔が対比して何とも言えない体験をしたのは、私が国民学校初等科第三学年の時のことでした。今、思い出すとぞっーとします。戦争は、人の心も身もかみくだく行為です。現代でも世界のどこかで争いが起きています。そして、日本の社会でも、家庭内でも争いがあります。これらを無くす事ができないのは、人間の運命なのでしょうか。